



食文化創造都市
鶴岡
City of Gastronomy
TSURUOKA

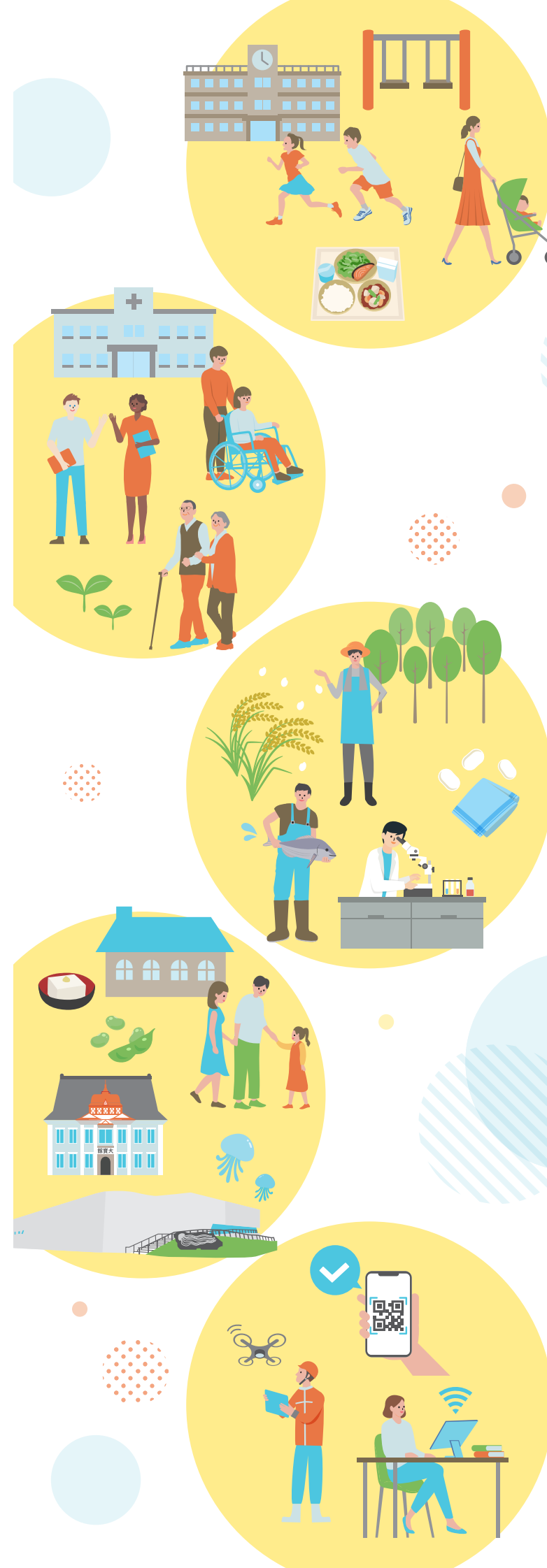
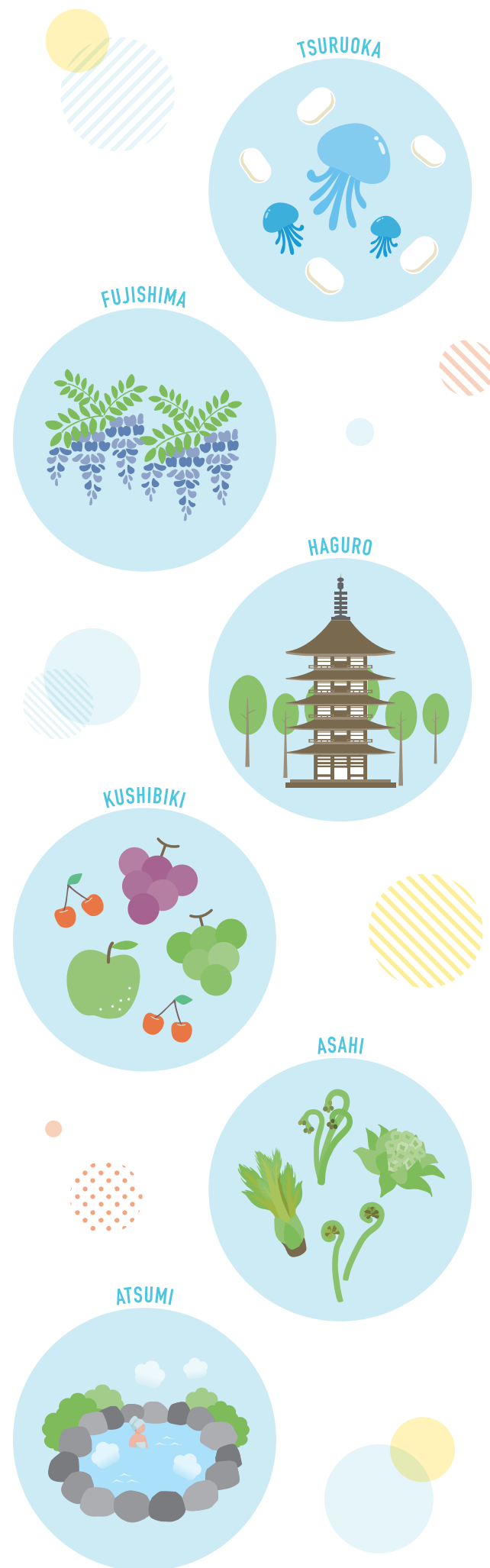


第2次鶴岡市総合計画 後期基本計画 概要版



【発行年月】令和6年6月 【発行】鶴岡市
〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9番25号
tel 0235-25-2111 (代表)
Email: tsuruoka@city.tsuruoka.lg.jp

<http://www.city.tsuruoka.lg.jp>



概要版

第2次鶴岡市 総合計画 後期基本計画

2024 ▶▶▶▶ 2028

目指す都市像の実現に向け、
施策を**加速化**してアクション
(実行)

◆はじめに	1
◆後期基本計画について	3
◆5つの加速化アクションの主なポイント	4
①若者・子育て世代に選ばれるまちづくり	5
②SDGs未来都市の実現	7
③産業振興と人材育成	9
④交流人口の創出・拡大	11
⑤総合的なデジタル化戦略の推進	13
◆地域の振興	15
◆計画の推進方針等	18

はじめに

第2次鶴岡市総合計画とは

平成31年3月に策定した鶴岡市のまちづくりの指針を示した10年間の計画で、めざす都市像を掲げた**基本構想**とその実現に向けた**基本計画**から構成されています。

実現にあたっては、行政のみならず、市民や事業者など、鶴岡市に関わる方々が、互いに協力し合いながら、取組を進めていきます。



基本構想の概要

めざす都市像

ほんとうの豊かさを追求する

みんなが暮らしやすい 創造と伝統のまち 鶴岡

多様な価値観を認め合い、それぞれが幸せと思える豊かさを追求し、市民一人ひとりが暮らしやすさを実感でき、次世代につなぐ創造の力と各地域に受け継がれてきた伝統の力が相乗効果を発揮し、発展する鶴岡市を目指します。



キャッチフレーズ

『毎日、おいしい。ここで、暮らしたい。』

「おいしい」は、豊かな自然や食文化創造都市など「食」を表現し、また、おいしい食べ物がたくさんあるということはもちろん、「好ましい」といった意味も含まれています。「ここで、暮らしたい」には、今住んでいる人、これから住む人、どちらからでもここで暮らしたいと思う人が増えるまちづくりをめざすという意味が込められています。



鶴岡市の特徴

世界が認めた食文化・美食都市

ユネスコ食文化創造都市

国内初

食の理想郷へ

出羽三山に伝わる「精進料理」、ただちや豆や温海かぶなどの約60種類の「在来作物」、雑菓子や笹巻などの「郷土・行事食」といった歴史と文化が結びついた独自の食文化



精進料理



ただちや豆



昔の給食

優れた観光資源

世界一の水族館 クラゲドリーム館／豊富な温泉地



加茂水族館 ミズクラゲの大水槽



湯野浜温泉



あつみ温泉



湯田川温泉



由良温泉

豊かな歴史と文化

3つの日本遺産

国内最多

出羽三山『生まれかわりの旅』



羽黒山五重塔

サムライゆかりのシルク



松ヶ岡開墾場

北前船寄港地・船主集落



善寶寺の五百羅漢堂

長所を伸ばす教育・研究活動

藩校「致道館」から受け継いだ教え
バイオサイエンスの研究拠点「鶴岡サイエンスパーク」

〈藩校致道館の教育〉

個性を大事にする
「自学自習」
「天性重視」

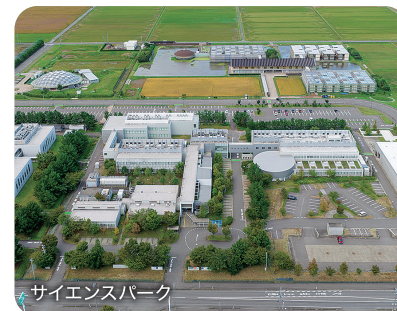
〈中高一貫校の開校〉

県立致道館中学校・
高等学校の開校



庄内藩校致道館

バイオサイエンス
分野を中心に世界
最先端の研究が
行われ、いくつもの
ベンチャー企業が
誕生



サイエンスパーク

後期基本計画について

第2次鶴岡市総合計画後期基本計画とは

総合計画を策定してから半分の5年間の経過したことを踏まえ、これまでの取組を見直し、残りの5年間で取り組んでいくことを示した計画です。



対話と協働を大切にしていきます <市民の声を取り入れた施策の展開>

今後の計画の進行管理や施策の推進にあたっては、市民やNPO、企業など様々な主体と協働を図りながら、市民ワークショップを開催するなど、対話を重視し、市民目線の姿勢で施策を進めていきます。



計画推進に当たっての視点

変化の激しい情勢に的確に対応するため、抱える課題の解決に向けて、本市の特徴を生かし、これまでの施策の効果の積み上げ、市民参画や民間活動を大事にしつつ、新たな対応を行います。

後期5年間で、特に重視すべき視点を設定し、「5つの加速化アクション」として位置づけ、「施策の大綱」や「未来創造のプロジェクト」を更に加速化して推進します。

分野別の基本方針 7つの施策の大綱

暮らしと防災、福祉と医療、農林水産業など、
分野別に取り組む施策

分野横断・連携の取組 7つの未来創造のプロジェクト

個々の施策だけでは解決が難しい課題や部署横断で取り組むことで
相乗効果が期待される施策

5つの 加速化 アクション

- ① 若者・子育て世代に選ばれるまちづくり
- ② SDGs未来都市の実現
- ③ 産業振興と人材育成
- ④ 交流人口の創出・拡大
- ⑤ 総合的なデジタル化戦略の推進

5年間で特に力を入れて取り組んでいく

5つの加速化アクションの主なポイント

① 若者・子育て世代に選ばれるまちづくり

子育て世代の負担軽減や子どもの居場所づくりを推進し、子どもを産み育てやすい環境の充実に図ります。

また、若者の地域理解を深め、若者の地元回帰・定着を促進するとともに、豊かな食文化を生かした鶴岡らしい給食の提供や地域の特色を生かした教育など、子どもたちにとって望ましい教育環境の充実に取り組みます。



② SDGs未来都市の実現

市民が6つの地域どこに住んでいても、自分らしく、安心して暮らし続けられるよう、市民や地域が支え合い、誰一人取り残さない地域づくりを進めます。

また、地域環境の保全と資源の有効活用に貢献する取組を進めるとともに、本市で暮らす外国人など多様な人々が、互いに認め合い、尊重し合うことで豊かに暮らすことができる共生の地域づくりを進めます。



③ 産業振興と人材育成

鶴岡サイエンスパークの研究成果を生かしたベンチャー企業の事業拡大の促進や多様な企業との連携により、地域産業の振興を図ります。あわせて、高等教育機関の研究教育活動の充実に図り、地域産業を担う人材を育成します。

また、ユネスコ食文化創造都市※の価値を生かした、農水産物の付加価値向上と販路拡大を推進するとともに、農林水産業へ新規参入する人への支援などを充実します。



※ユネスコ創造都市ネットワークの「食文化分野」の認定を受けている都市。世界で56都市が認定されている。鶴岡市は平成26年に国内で初めてユネスコから認められた食文化創造都市（令和6年5月現在）

④ 交流人口の創出・拡大

市街地への都市機能の集積やまちなか居住の誘導、民間活力の活用などにより、中心部や地域拠点などのエリアの特性に合わせた持続可能なまちづくりを推進します。

また、本市への移住定住を促進するとともに、歴史や文化、自然、食などの豊かな地域資源を生かした鶴岡ならではの観光振興を図ります。



⑤ 総合的なデジタル化戦略の推進

行政手続きのデジタルワンストップ化などによる市民の利便性の向上を図るとともに、行政の様々な分野の取組でデジタル技術の有効活用を進めます。

また、デジタル技術を活用した遠隔医療体制の構築などによる地域医療の充実や農業や観光、文化資源の保存継承など、様々な分野の取組でデジタルの活用を進めます。



5つの加速化アクション

若者・子育て世代に選ばれるまちづくり

市民の皆さんから
こんな意見を
いただきました！

- 子育てにはお金がかかるので医療費や給食費を無料にしては
- 子どもが自由に遊べる公園や施設を増やしては
- 保育園の整備を進めることや保育料を無料にしては

本市で活躍し、ここで暮らしたいという若者や、
鶴岡で子育てをしたいという人を増やします



協働の取組

市民や関係団体、企業などと
共通の目的を持ち、連携・協力
して地域課題の解決にあたる
取り組みのこと

- 子どもが安心して遊べる、預けられる施設を作ることで、子育ての情報交換や親の気分転換につながるよね
- 若者の交流の場や里帰りするメリット、支援があったらよいのでは
- 鶴岡の食文化を学校で体験できたり、食べられたりすると良いのでは

1. 子どもを産み育てやすい環境の充実

子育て世代の負担軽減や子どもの居場所づくりを推進し、
子どもがまんなかにいる社会の実現を目指します

主な取組

妊娠から子育て期にわたる相談支援の強化

妊娠から子育て期まで切れ目のない相談支援体制を強化するため、
こども家庭センターを設置します。

妊娠・出産への支援

体外受精など公的医療保険が適用となる不妊治療（※）を受ける夫婦
が治療を受けやすくするため、自己負担額の一部を支援します。

育児の不安軽減と子育ての応援

育児の不安軽減と子どもの健やかな成長を支援するため、家庭訪問
などの相談支援のほか、子育て応援メッセージや絵本を贈呈します。

子育て医療の無償化

子どもの医療費を18歳まで無償化します。

第3子以降の保育料・副食費の無償化

国の無償化の対象とならない第3子以降の保育料、副食費を市独自で
無償化します。

学校給食費の無償化

小中学生の学校給食費を無償化します。

子どもの意見を取り入れた遊び場の整備

子どもが自主的・主体的に遊ぶことができる遊び場の整備について、
「こども会議」を開催し、子どもの意見を取り入れ検討を進めます。

放課後の子どもの居場所づくり

放課後の子どもの遊びや生活の場づくりのため、老朽化等が進む放課
後児童クラブ（学童保育所）の整備を行います。



妊娠から子育て期までの相談支援、医療費の無償化
など子どもの成長に即した支援を行います



市民や地域の声を取り入れて、放課後に子どもが楽しく
遊び、生活できる学童保育所の整備に取り組みます

※公的医療保険が適用となる不妊治療（生殖補助医療）
体外受精・顕微授精・精巣内精子採取術など体外で
行う治療のこと

2. 若者の地元回帰・定着の促進

若者の地域理解を深め、奨学金の返済支援や地元を離れている
若者につながる施策に取り組み、地元回帰や地元定着を促進します

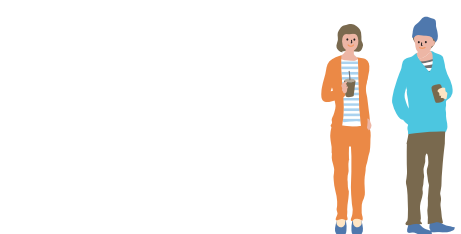
主な取組

若者の地元就職の促進

- 市外在住の大学生等が市内企業へ就職活動を行う際の交通費等を
支援します。
- 大学生等やUターン希望者を対象としたインターンシップや交流イベ
ント等を行います。

奨学金返済の支援

進学などで本市を離れた子どもが本市に戻って働き、活躍できるよう、
「つるおかエール奨学金返済支援事業」により支援します。



地元企業と連携して東京などを会場に地元就活応援
セミナーを開催します

3. 教育環境等の充実

学校給食発祥の地であり、ユネスコ食文化創造都市である本市の食文化を
生かした鶴岡らしい給食の提供や豊かな教育資源の活用を図ります。

主な取組

鶴岡らしい給食の提供と学校給食センターの整備

生産者と協力して地元食材の利用拡大に取り組むとともに、郷土食や
行事食の給食を提供します。また、学校給食センターの整備を進めます。

豊かな教育資源の活用

鶴岡型小中一貫教育の検討なども踏まえ、地域の特色を生かした教育
の推進を図るなど、ふるさとを誇りに思える子どもの育成を進めます。



本市の豊かな食文化を生かした鶴岡らしい給食を提供
します

施策の成果指標（KPI） 進捗状況を把握して取組の推進や見直しを図る指標とします

成果指標（項目）	現状値	目標値
合計特殊出生率	1.44（2021年度）	1.80（2028年度）
子育て支援サービス、保育所などの充実度や 利用しやすさを感じている人の割合	49.2%（2023年度）	56%（2028年度）

市民の皆さんから
こんな意見を
いただきました！

- 医療機関が閉院して心配、医師確保の取組を進めては
- 助けを求めている方には地域で支え合う仕組みが必要だね
- 障害の有無や性別、人種など多様性を認め合うことが大切

誰一人取り残さず、市民のみなさんが
本当に幸せだと思えるまちを実現します

- 多言語に対応するより、やさしい日本語の方が伝わりやすいよね
- 地域の誇りとしている美しい自然などを後世へ引き継いでいきたい

1. 誰もが安心して暮らし続けられる体制の整備

誰もが住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らし続けられる
地域づくりを進めます

主な取組

複雑、複合的な課題を抱える方への支援体制の構築

複雑、複合的な課題を抱える高齢者や障害者、ヤングケアラー（※）、
ひきこもり状態にある人などを支援するため、

- ・身近な場所で包括的な相談を受けられる体制づくり
- ・多機関が協働して行う個別支援プランに基づく支援
- ・対象者の方に継続的に関わり支援する伴走型支援

などの総合的な支援を受けられる体制の構築を進めます。

災害時に支援が必要な方の避難計画の作成

ひとり暮らしの高齢者や障害者などが災害時にどのように避難すれば
良いか、一人ひとりの実情に合わせた個別の避難計画を本人や家族、
地域の人と一緒に作成します。

医療的ケア児への支援

医療的ケア児を持つ家族の介護などの負担軽減のため、訪問看護の利
用促進などを行政と事業者が協力して取り組みます。

切れ目のない医療の提供

地域連携バス（※）の運用拡大やICTを活用した在宅医療におけるオ
ンライン診療などを推進し、切れ目のない医療の提供を図ります。

医師、看護師などの医療従事者の確保

荘内看護専門学校の移転新築整備による看護師の育成や医学部学生
等の積極的な実習受入れを行うなど、医療従事者の確保に取り組みま
す。



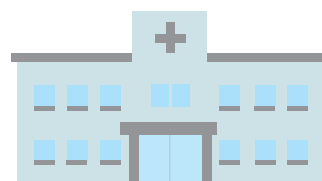
孤立・孤独で悩む方を支援する研修会を行うなど、関
係機関とともに地域で支え合う体制づくりを進めます

※ヤングケアラー
本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話な
どを日常的に行っている子どものこと



市民が安心して医療を受けられるよう、地域の医療機
関に従事する看護師の育成に取り組みます

※地域連携バス
医療機関が診療内容、治療経過、在宅療養などの診
療計画を作成し、その計画に関係する全ての医療機関
及び介護・福祉施設等がICTの活用等により共有す
るとともに、患者に提示・説明することで、安心して医
療を受けられるようにするもの



2. 共生社会の推進

本市に在住する外国人を含む多様な人々が、互いに尊重し合うことで、
暮らしやすい、共生の地域づくりを進めます

主な取組

多文化共生のまちづくりの推進

- 外国人にも分かりやすく情報を伝える「やさしい日本語」の普及に
取り組みます。
- 出羽庄内国際村を拠点に生活相談や災害時の支援など、市内に居住
する外国人が地域で安心して生活できる環境を整えます。

多様性を認め合い尊重し合う社会づくりの推進

誰もが性や年齢、障害の有無、国籍等に関わらず自分らしく生きてい
ける社会の実現に向けて、市民一人ひとりの理解促進を図ります。



市内に居住する外国人がいきいきと暮らせるよう交流
イベントを実施します

3. 環境保全と資源循環型社会の形成

地域や地球の環境保全、ごみの減量や資源化の取組を推進します。

主な取組

地域の豊かな自然との共生、生物多様性の確保

自然学習交流館「ほとりあ」を拠点に、自然に親しみながら楽しく学
べる学習の充実や環境保全活動を市民とともに取り組みます。

ごみの減量・資源化と下水道資源の有効活用

- 食品ロスの削減やごみの適正な分別などによる家庭系ごみの発生抑制
と資源化を、市民・事業者とともに取り組みます。
- 下水道資源の有効活用を行うBISTRO下水道（※）の取組を、事
業者や研究機関と連携して取り組みます。



「ほとりあ」では、都沢湿地やその周辺での自然と触れ
合う活動を通じた自然環境学習の充実に取り組みます

※BISTRO下水道
下水道から出た資源（汚泥、熱、消化ガス、処理水等）
を有効活用し農水産業の生産性向上等に役立てる取組

施策の成果指標（KPI） 進捗状況を把握して取組の推進や見直しを図る指標とします

成果指標（項目）	現状値	目標値
健康・医療サービスなどの充実度や利用しやすさを感じている人の割合	47.3%（2023年度）	52.0%（2028年度）
普段の生活の中で幸せな気持ちになる子どもの割合	小学生89.9% 中学生87.1% （2023年度）	小学生91% 中学生88% （2028年度）

5つの加速化アクション 産業振興と人材育成

市民の皆さんから
こんな意見を
いただきました！

- 第一次産業の従事者が減少している。魅力をアピールする機会を増やしては
- 農業後継者への支援が大切なので、取組をもっと増やしては
- 食文化を引き継いでいくためにも、鶴岡の農産物などを私たちがもっと食べることが大切だね

地域に根ざした産業の振興を進め、
魅力的で多様な雇用の場を創出します

- 魅力がある働く場の確保が大切。働く場の魅力をアピールする機会をもっと設けては
- どの分野でも働く人を確保するのが大変。担い手・人材不足の課題をどのように解決していくかが重要
- 新しいベンチャー企業がどんどんできてくる流れが必要では

1. 農業・林業・漁業で働く人への支援

農林水産物の付加価値向上と販路拡大などを支援するとともに、新規参入する人への支援の充実を図ります



主な取組

(1) 農業の担い手育成・確保と付加価値向上・販路拡大

農業の担い手育成・確保

市立農業経営者育成学校「SEADS」と地域が連携し、将来の地域農業の担い手となる新規就農者の育成・確保を進めます。

農産物の付加価値向上と販路拡大

6次産業化の取組や国内外での商談会への参加等を支援し、農産物の付加価値向上と販路拡大を図ります。

(2) 林業の担い手育成・確保と森林資源の利用拡大

林業の担い手育成・確保

林業研修や子どもの体験学習などを実施し、森林や林業に親しむ機会を創出することで、担い手の育成・確保につなげます。

森林資源の利用拡大

- 一般住宅や公共施設整備への鶴岡産木材の利用を促進し、森林資源の利用拡大を図ります。
- 市民が行う木質バイオマスを燃料とする設備等の導入を支援し、バイオマスエネルギーの利用を促進します。

(3) 水産業の担い手育成・確保と消費拡大

水産業の担い手育成・確保

漁業者の初期投資費用等に対する経済支援などにより、経営の安定化を図ることで担い手の確保を進めます。

水産物の高付加価値化と消費拡大

- 漁業者や流通業者による蓄養、養殖、活魚出荷などを支援し、安定出荷体制づくりと地魚の高付加価値化を図ります。
- 漁業者、流通業者、料理人等と連携して地魚のブランド化や低利用魚活用研究を進め、地魚の消費拡大を図ります。



農業者等と連携し、農業経営者育成学校「SEADS」で地域農業の担い手を育成します



林業研修などを行い、林業への理解・関心を高めることで、担い手の育成・確保につなげます



漁業者や料理人等と連携し、低利用魚の活用策を研究します

2. 地元の企業やそこで働く人への支援

地元企業の人材確保や事業拡大などを支援するとともに、鶴岡サイエンスパークの研究成果を生かしたバイオ産業の集積を図ります



主な取組

企業活動を支える人材の確保

- 小・中・高校生を対象に職業体験や企業見学会を開催し、地元企業への理解を深めることで、地元で働く人材の確保につなげます。
- 企業が行うオンラインでの採用活動や、採用力の向上を目指す取組を支援します。

新たな産業団地の整備

企業の事業拡大等のニーズに応え、産業の強化を図るため、新たな産業団地を整備します。

企業の成長力・競争力の強化

- 企業の技術革新や新製品の開発、販路拡大の取組を支援します。
- 企業の事業紹介や商談の場を提供することで、受注や販路開拓の機会を創出します。

起業・創業の支援

学生から一般事業者まで幅広い年代の起業意欲を高め、新たな事業を創造するため、「鶴岡イノベーションプログラム」の開催を支援します。

高等教育・研究機関の成果を核とする新しい産業の振興

- 慶應義塾大学先端生命科学研究所の高度な研究機能・成果を生かしたバイオ産業の集積を図ります。
- 市内に立地する高等教育機関（山形大学農学部、鶴岡工業高等専門学校、慶應義塾大学先端生命科学研究所、公益文科大学大学院）と地元企業との共同研究や連携を促進します。



地域産業の強化を図るため、新たな産業団地を整備します（イメージ図）



鶴岡イノベーションプログラムを開催し、起業家の育成を図ります

施策の成果指標（KPI） 進捗状況を把握して取組の推進や見直しを図る指標とします

成果指標（項目）	現状値	目標値
魅力ある就職・就労先に満足している人の割合	25.0%（2023年度）	29%（2028年度）
新規就農者数	累計172人 （年平均43人） （2019～2022年度）	累計450人 （年平均45人） （2019～2028年度）

交流人口の創出・拡大

市民の皆さんから
こんな意見を
いただきました！

- 移住希望者向けの無料のお試し居住体験をしては
- 商店街がシャッター街になっているので、活気を取り戻したいよね
- 空き家・空き地が増えているので、有効活用しては

ひとの交わりを加速させ、
移住者や関係人口を増やします

- 貴重な資源を生かし、インバウンドも含めて鶴岡を訪れてくれる人を増やしては
- 人口が減っているので、人を鶴岡に呼び込むことが重要だね
- 移住希望者向けに、歓迎会や交流会などまちをあげてPRイベントを開催しては

1. 中心市街地の活性化

市街地への都市機能の集積やまちなか居住の誘導、民間活力による創意工夫等により、中心部や地域拠点などのエリアの特性にあわせた持続可能なまちづくりを推進します

主な取組

まちなかの賑わい創出

中心市街地の活性化について、ワークショップなどを通して市民と議論を深めるとともに、食や物産販売などの集客イベント等の開催を支援することで、まちなかの賑わいづくりを進めます。

新たな図書館の整備検討

本や資料を通じて多くの人が集い、交流を生み出す施設を目指し、図書館整備の構想と計画づくりを進めます。

空き家等の有効活用とまちなか居住の誘導

空き家や空き店舗の活用支援を行うとともに、若年世帯や子育て世帯、移住者等の中心市街地へのまちなか居住の誘導を図ります。



関係機関や市民とともに、中心市街地活性化に向けた議論を行います



※子どもに読書の楽しさを伝えるおはなし会の様子
本や資料を通して様々な学びや交流を生み出す施設となるよう、図書館の整備を検討します



2. 移住・定住の促進

鶴岡を「自分らしい暮らしを実現できる場所」として選んでもらうため、Uターンに関する相談、情報発信などを通し、本市への移住定住を促進します

主な取組

移住のきっかけづくりと定住後の支援

- お試し住宅の利用や移住体験プログラムへの参加などにより、移住・定住につながる機会を創出します。
- 移住等に係る経済的支援を行うとともに、移住後における移住者同士の情報交換会の場を設けるなど、移住者の不安を軽減します。

情報発信・相談・サポート体制の充実

移住希望者へ鶴岡の魅力の情報発信や「仕事・住まい・暮らし」に関する相談、サポートを行います。



移住した方々が語り合い、移住後も安心して暮らせるよう移住者交流会を開催します

3. 戦略的な観光の展開

歴史、文化、自然、食などの地域資源を生かした鶴岡ならではの観光振興を図ります

主な取組

中期観光戦略プランの推進

中期観光戦略プランで掲げる将来ビジョン「全ての道は出羽（Dewa）へ通ずる」の実現に向け、次の3つの基本戦略を推進し、観光消費額の増大につなげます。

○域内ネットワークの強化

官民が協働で、3つの日本遺産や4温泉などの観光資源を生かした鶴岡らしいコンテンツ作りと、受入環境の整備を進めます。

○広域ネットワークの構築

インバウンド拡大も意識した、東北広域周遊ルートを構築します。

○ITネットワークの活用

HP・SNSでの情報発信と、マーケティングを強化します。

官民協働による観光振興

地域観光の推進役であるDEGAM鶴岡ツーリズムビューローが実施する、マーケティング活動や、観光情報の発信、旅行商品づくりを推進し、観光誘客の拡大につなげます。

ガストロノミーツーリズム（※）の推進

ユネスコ食文化創造都市である本市の多様な食文化、食体験コンテンツを生かした、ガストロノミーツーリズムの取組を促進します。

水族館や博物館などを中核とした交流人口の拡大

- 世界一のクラゲの種類数を展示する加茂水族館の情報発信の強化と、更なる魅力向上のためのリニューアル工事を実施します。
- 致道博物館をはじめとする文化施設などで本市の歴史文化の発信・紹介を行うとともに、施設相互の連携による周遊を促進します。



受入環境の整備やプロモーション活動により、インバウンド誘客の推進を図ります



在来作物を育てる農家等とともに、ガストロノミーツーリズム（焼畑あつまかぶの収穫体験など）を進めます

※ガストロノミーツーリズム
その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食材を楽しみ、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズム

施策の成果指標（KPI） 進捗状況を把握して取組の推進や見直しを図る指標とします

成果指標（項目）	現状値	目標値
移住・定住施策による移住件数（年間）	76件（2022年度）	89件（2028年度）
観光消費額	27,790百万円（2022年度）	39,682百万円（2028年度）

総合的なデジタル化戦略の推進

市民の皆さんから
こんな意見を
いただきました！

- Wi-Fiの整備などデジタル環境の充実が必要では
- これからは行政手続きもデジタル化が必要では
- 地方都市こそデジタルの技術を活用した活性化が大切

デジタル技術を活用した施策を推進します

- 市民の満足度、幸福度を向上するため、デジタルをどう生かしていくか考えることが大切
- 医療介護福祉分野でもデジタル化を推進してもらいたいよね

1. 行政手続きのデジタル化と業務効率化

市民の利便性の向上を図るため、行政手続きなどのデジタル化を進めるとともに、デジタル技術を生かした業務の効率化を図ります

主な取組

窓口サービスのデジタル化

マイナンバーカードを活用した各種証明のコンビニ交付やキャッシュレス決済などのデジタル技術を活用することにより、市民の利便性向上と窓口業務の負担軽減を図ります。

行政事務手続きのデジタル化

遠距離通学支援に係る補助金申請など、パソコンやスマートフォンなどから電子申請が可能な事務手続きを拡充し、市民の負担軽減を図ります。

公共施設やイベント予約のオンライン化

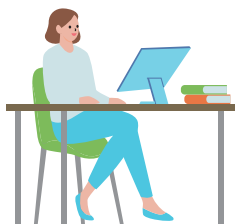
文化・スポーツ施設をはじめとする公共施設や各種イベントの予約について、スマートフォンなどからオンラインで手続きができるようにします。

スマート市役所の推進

市職員の働き方にデジタル技術を取り入れ、オフィス環境の改善やペーパーレス化などの庁内業務の効率化と市民窓口サービスの利便性向上を進めます。

RPAの導入による業務効率化

RPA（※）導入により、行政事務の効率化を図ります。

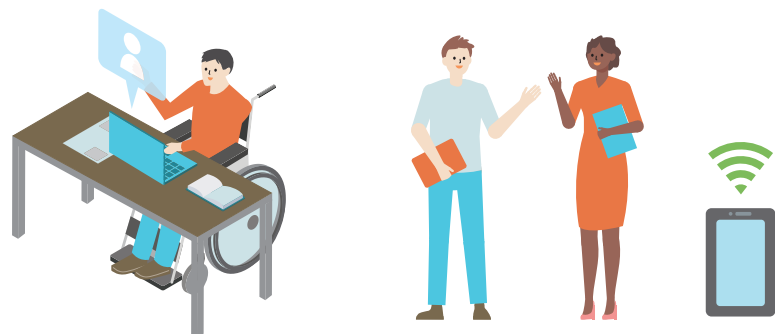


公共施設の予約などオンラインで手続きができる取組を拡充します



朝日庁舎の改築にあわせ、市民窓口や行政手続き等のデジタル化を先行して進め、住民の利便性向上を図ります

※RPA
これまで手作業で行ってきた業務について、ソフトウェアロボット技術により業務を自動化すること



2. 各分野におけるデジタル技術の有効活用

デジタル技術を活用した市民への迅速な情報提供を行うほか、産業振興、交流人口の拡大、医療体制の充実など各分野におけるデジタル化を進めます

主な取組

防災情報の迅速化

災害発生時等に避難情報などをPCやスマートフォンなどに伝達できる体制を整備し、市民や自治会への情報発信・情報共有の迅速化を図ります。

スマート農業の推進

ICTを活用したスマート農業（※）の導入を進め、米や園芸作物の生産性の向上と生産コストの低減を図ります。

インバウンド誘客の受入体制の整備

市内観光施設と連携し、ICTを効果的に活用して外国語でコミュニケーションができる取組を進めます。

デジタル技術を活用した医療体制の充実

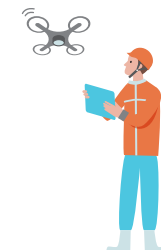
国立がん研究センター東病院と荘内病院との遠隔医療体制の構築により、地域医療の充実を図ります。

文化財や歴史的資料のデジタル化

文化財や歴史的資料のデジタルアーカイブ化（※）を進め、魅力ある貴重な資源の保存継承と情報発信に努めます。

※スマート農業
ICT、ロボット技術を活用して、超省力化や高品質生産を実現する農業

※デジタルアーカイブ化
デジタルカメラなど電子撮影機器を用いて文化財や歴史資料などの文化関係資料を電子化し保存記録すること



国立がん研究センター提供
国立がん研究センター東病院が荘内病院の手術映像を見ながら遠隔で指導・助言できる医療体制を整えます



農業用ドローンの導入など、低コスト化や省力化につながるスマート農業の取組を進めます

施策の成果指標（KPI） 進捗状況を把握して取組の推進や見直しを図る指標とします

成果指標（項目）	現状値	目標値
マイナンバーカードの交付率	64.9%（2023年3月）	90%（2028年3月）
鶴岡市LINE公式アカウントを利用したことのある人の割合	29.8%（2023年度）	40%（2028年度）

地域の振興

各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

鶴岡 地域



重点的な施策の方向

- 課題解決力のあるコミュニティの構築に努めるとともに、様々な人々が集い交わる場を創出し、住民主体のまちづくりを推進します。
- 多様な学びの場の創出や地域資源を活用した地域づくり活動を支援し、地域で活躍する人材の育成を図ります。



人口：85,373人
世帯数：37,592世帯
(R6.3時点)

主な取組

住民主体のまちづくりの推進

- 広域コミュニティ組織が行う地域ビジョンの策定とビジョンに基づく実践活動の支援
- 地域まちづくり未来事業を進めることで、活力あふれる地域コミュニティの構築を推進
- 職業や業種などが異なる多様な者同士の新たな関係づくりの場を作り、市民活動や地域活動を創出

地域で活躍する人材の確保・育成

- 学生や若い世代が地域づくり活動に参加する仕組みや機会を創出
- 多様な学びの場である鶴岡致道大学など様々な専門分野の学問や知見に接することができる場を提供
- まちづくり支援制度を通じ、自発的な地域づくり活動を支援

藤島 地域



重点的な施策の方向

- 人と環境にやさしい農業の取組を継続し、安全安心な農産物の生産を推進します。
- 「ふじ」や獅子踊りなどの「伝統芸能」、藤島歴史公園「Hisu花(ヒスカ)」、東田川文化記念館を活用し、地域づくりや交流を促進します。
- 子育て・教育環境の充実のため、文厚エリアの整備推進を図ります。



人口：9,175人
世帯数：3,207世帯
(R6.3時点)

主な取組

未来に繋げる田園文化と多様な水田活用農業の振興

- 人と環境にやさしい米づくりの推進
- 地元農産物の学校給食への供給を支援
- 庄農うどん大作戦など庄内農業高等学校と地域が連携した活動への支援

歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進

- ふじの育成やイルミネーション点灯などHisu花を拠点にしたまちづくり推進
- Hisu花と東田川文化記念館を一体的な観光拠点と捉えた観光情報の発信
- 鶴岡伝統芸能祭の開催による獅子の里「藤島」の発信

くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の構築

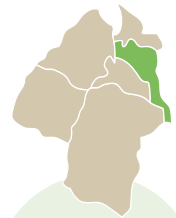
- 子育て・教育環境の充実のため、文厚エリアの整備促進
- 交通空白を生まない持続可能な公共交通体系の確立
- 長沼温泉ぽっぽの湯を核とした健康増進・子育て支援事業の推進

羽黒 地域



重点的な施策の方向

- 出羽三山とその門前町、松ヶ岡開墾場など恵まれた地域の資源を生かし、魅力あふれる観光づくりを推進します。
- 気候や風土に適した収益性の高い農林作物の生産体制の確立、耕畜連携による付加価値の高い農業生産を目指します。
- 豊かな自然や地域の歴史文化を伝える学習機会を提供し、若者の定着、地元回帰を促進します。



人口：7,289人
世帯数：2,556世帯
(R6.3時点)

主な取組

魅力あふれる観光の推進

- 手向門前町の歴史的まちなみの整備推進、出羽三山の精進料理の魅力発信などによる交流人口の拡大
- 松ヶ岡地域振興ビジョンに基づく青空マルシェ開催などの賑わい創出への支援
- インバウンドに対応するための観光案内等の多言語化

地域の特色を生かし価値を高める農業の推進

- 月山高原エリア畑作団地での機械導入や小麦の販路拡大
- 羽黒高品質堆肥製造施設の堆肥施用の推進と、有機・特別栽培農産物の生産拡大

活力ある地域づくりを担う地域コミュニティの推進

- 地域活動や防災の拠点となる地域活動センターの施設整備を検討
- 地域の歴史・文化・伝統などを学ぶ機会の創出
- 市営路線バスの利便性向上と利用の拡大

櫛引 地域



重点的な施策の方向

- 「フルーツの里」として持続可能で経営力のある果樹産地の形成を目指します。
- 黒川能などの貴重な伝統芸能や歴史文化を保存継承するとともに、観光や地域づくりへの活用推進を図ります。
- 地域コミュニティの活性化や健康増進のための拠点づくりを進めることで、健康で安全、安心に暮らせる環境を整備します。



人口：6,504人
世帯数：2,231世帯
(R6.3時点)

主な取組

フルーツの里づくりと交流・観光の推進

- 果樹生産基盤の整備促進
- 果樹産地の積極的な情報発信と付加価値を高める6次産業化の推進
- 観光果樹園などを活用した体験型観光等による交流人口の拡大

貴重な歴史文化の継承と活用推進

- 黒川能の映像や音源の記録を活用した伝承支援・後継者育成支援
- 丸岡城跡史跡公園と黒川能の里王祇会館への集客

コミュニティの活性化とくらしやすい地域づくりの推進

- 地域コミュニティの活性化推進とケーブルテレビを活用した情報発信
- 若者世代による“こしゃってマルシェ”などの取組を支援し、協働のまちづくりとにぎわいを創出
- ゆ〜Townを核とした健康増進、交流活動の促進

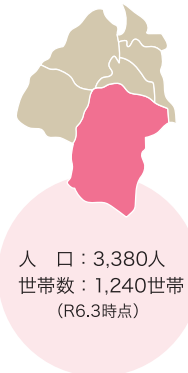
地域の振興

朝日 地域



重点的な施策の方向

- 中山間地域で安全安心にいきいきと暮らせるよう、生活環境の整備や次世代を担う人材育成、行政手続きや地域づくり活動等におけるデジタル技術の活用を推進します。
- 地域特産品の開発や販売支援などに取り組むとともに、農地・山林保全による農村集落機能の維持を目指します。
- 豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせた通年型観光による誘客を推進します。



主な取組

中山間地域における 定住環境の支援

- 利用者の視点に立った地域内交通対策と克雪対策による住民負担の軽減
- 豊かな森林資源、自然環境を活用した自然環境教育の実践
- 市民窓口での行政手続きや地域づくり活動等でのデジタル技術の活用推進

中山間地に特化した 農林業の振興

- 月山ワインや山菜、朝日産そばなどの生産振興と特産品の開発・販売支援
- 特用林産物の生産量確保と販売支援
- 鳥獣被害防止対策の支援強化

地域資源を活用した 観光の振興

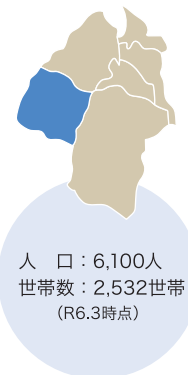
- 湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村、月山あさひ博物村などへの誘客促進と環境整備
- 湯殿山や六十里越街道など豊かな自然環境や、歴史・文化を生かした交流人口の拡大

温海 地域



重点的な施策の方向

- 温泉街の景観保持や賑わいづくりの促進と、道の駅あつみの移転整備を契機とした地域産業の活性化を進めます。
- 体験型観光や教育旅行の受入れを進めるなど、交流人口、関係人口の拡大を図ります。
- 在来作物などの地域独自の農林水産物や伝統的工芸品「羽越しな布」の継承と振興を支援します。
- 海、山などの豊かな自然環境のもと、安心して暮らし続けられる環境整備を進めます。



主な取組

あつみ温泉と道の駅を 拠点とした地域振興

- 温海公園（あつみ温泉パラ園）の整備と足湯などの施設改修による温泉街の魅力向上
- 道の駅あつみの移転整備を契機とした地域産業の活性化

交流人口、関係人口の拡大と 地域特性を生かした農林水産業の振興

- 体験型観光や教育旅行の受け入れによる交流人口の拡大
- 在来作物「焼畑あつみかぶ」「越沢三角そば」等のブランド力の向上と販路拡大
- 伝統的工芸品「羽越しな布」の後継者育成や販売促進などの支援

自然豊かに暮らし続け られる環境整備

- 集落ビジョン策定など地域コミュニティ活動への支援
- 乗合タクシーの運行支援や中高生等の遠距離通学への支援
- 保育園から中学校まで一貫した生きる力を育む教育の推進

計画の推進方針等

計画の推進方針

この計画の推進にあたっては、次の方針により進めます。

- ① 対話と協働による政策推進
- ② 国などへの提言要望と広域的な連携による政策推進
- ③ 効果的で効率的な行財政運営
- ④ SDGs未来都市としての取組の推進
- ⑤ PDCAサイクルによる計画の進行管理

【市民の声の反映】

後期基本計画の策定にあたっては、各団体の代表者や有識者等から構成される「総合計画審議会」、及び5つの「専門委員会」で丁寧に協議を重ねてきました。また、市民の「声」を聴くことを重視し、学生や、外国人の方を含めたワークショップや地域振興懇談会等のほか、パブリック・コメントでいただいた幅広い意見を計画に取り入れています。



計画の体系

未来をつくる3層で構造

01

>> 基本構想
ビジョンを示す

02

>> 基本計画
方向性を示す

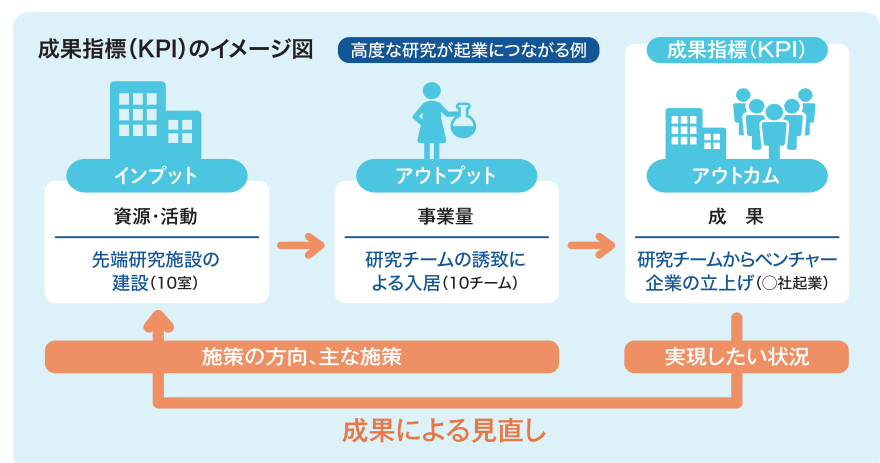
03

>> 実施計画
具体的な
取組を示す

PDCAサイクルによる計画の進行管理

PDCAサイクルとは、Plan（計画）→ Do（実施）→ Check（評価）→ Action（改善）の頭文字をとった、計画の進行管理を行う手法の一つです。

社会や時代の変化に対応しながら、効果的・効率的な行政運営を進めるため、主な施策の達成度を測る「成果指標（KPI）」を設定し、PDCAサイクルによる進行管理を行います。



※KPI(Key Performance Indicator):

重要業績評価指標：課題の解決に向けた取組の達成度を定量的に測るための指標。達成度を数値化することで、施策の有効性や問題等の評価が容易になり、施策や事業の見直しを図るための指標として用いられる。